社会貢献

日産は、自動車メーカーとして魅力ある製品やサービスを世界中の人々に提供することはもちろん、コミュニティの一員として主体的に社会にかかわり、貢献していくことも企業の重要な役割だと考えます。日産は、「環境への配慮」「教育」そして「人道支援」の3つを社会貢献活動として重点的に取り組む分野と定め、自動車メーカーとしての知識や技術、そして製品を活用しながら、さまざまな活動を行っています。また、複雑化する社会課題に対応するため、非営利組織や行政などさまざまなセクターと連携し、相互の強みを生かしながら効果的な活動を展開しています。こうした社会貢献活動の方針をグローバルに共有するとともに、国や地域により異なるニーズに対応するため、各国の事業拠点や関連会社による独自の取り組みも行っています。

取り組みの柱

環境への配慮 ___p54

教育 ___p55

人道支援 ___p56

関連指標

2012年度グローバル社会貢献支出額 **約13億円**
（寄付金・協賛金を含む、連結ベース）

▸▸ GRI G3 Indicators
▸▸ EC1

社会貢献への取り組み

日産は社会貢献活動の企画・実施にあたり、金銭的な支援だけでなく、自動車メーカーとしての知識や専門技術、自社製品、関連施設の活用など、日産が事業を通じて培った資源を十分に生かすことにより、独自性の高い活動を行います。

また、より実効性の高い活動を行うため、活動分野において高い知見と専門性を持つ民間非営利組織（NPO）や非政府組織（NGO）との対話を重視します。

多くの従業員が社会に関心を持ち、活動に自発的に参加できるように、各国の事業会社が独自にボランティア情報や参加機会を提供するほか、マッチング・ギフト制度などを取り入れて従業員の社会貢献活動をサポートしています。

2012年度の実績

- 国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップ拡大
- インドにおいて安全運転啓発活動「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」*を実施
- 世界各国を統括するリージョナルオフィスの担当者による社会貢献担当者会議を実施し、グローバル推進体制を強化

page_50

* 「日産セーフティ・ドライビング・フォーラム」の詳細を掲載しています

今後の取り組み

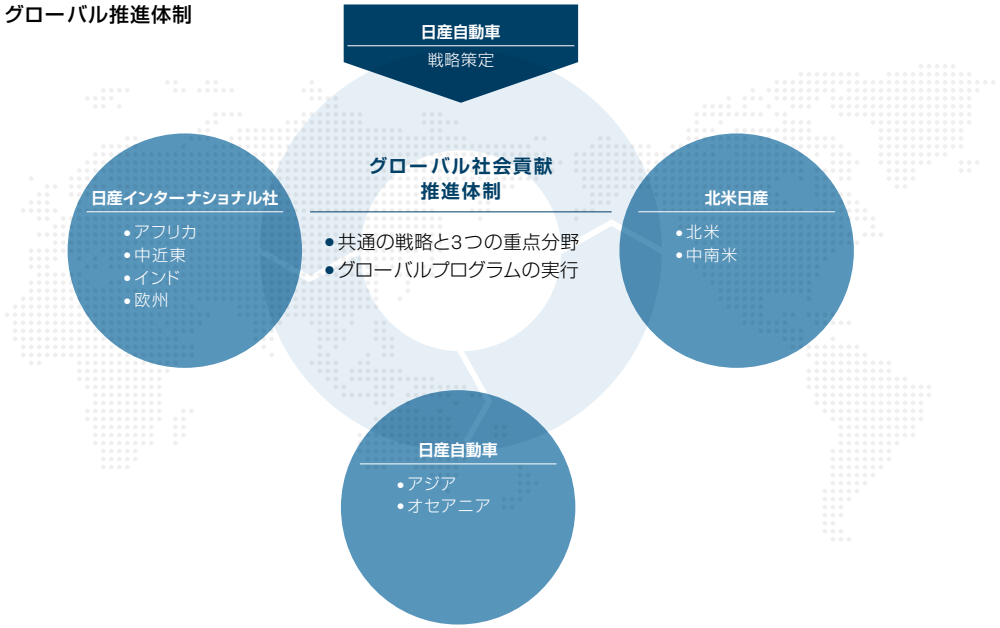
- 現在実施している活動については、PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを回し、より実効性の高いものにしていく
- 新たに開始したグローバルプログラムについては、ステークホルダーの声に耳を傾けながら改善を図る
- 活動の成果を測る指標を検討する
- 東日本大震災により被災した地域への継続的な支援を実施する

推進体制

日産の社会貢献活動方針は、日産自動車グローバル本社（日本）のCSR部が策定します。エグゼクティブ・コミッティ（経営会議）等で議論・決定された方針はグローバルに共有され、各国・地域の活動もこの方針に沿って実行されます。

世界を①アジア・オセアニア ②米州（北米および中南米） ③アフリカ・中東・インド・欧州（AMIE）の3つの地域に分け、日産自動車がアジア・オセアニア地域を、北米日産会社（NNA）が米州地域を、そして日産インターナショナル社がAMIE地域を統括します。これら3つのリージョナルオフィスは、それぞれの地域での販売会社や連結子会社による社会貢献活動をサポートするとともに、グローバルプログラムの推進や自然災害発生時の対応などにおいて中心的な役割を果たします。社会貢献活動においても、事業と同様にグローバルな連携をとる体制が整っており、クロスファンクショナル、クロスリージョナルに取り組んでいます。

グローバル推進体制



環境への配慮

日産は、環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、環境負荷削減に意欲的に取り組んでいます。社会貢献活動においても「環境」への取り組みが重要であると考え、地球環境問題への理解を深める教育プログラムの実施、低炭素社会の実現に向けた基礎研究の奨励といった活動に取り組んでいます。

日産の特色を生かした環境出張授業（日本）

日本では、製造業ならではのノウハウを生かした3種類の体験型教育プログラムを2007年から実施しています。いずれも小学校高学年の児童を対象に、日産従業員が講師となって学校を訪問しています。そのひとつである「日産わくわくエコスクール」*は、地球環境問題への理解を深めるとともに、日産の環境への取り組みを紹介し、100%電気自動車「日産リーフ」や燃料電池車の試乗を通じて最新の環境技術を体験するプログラムです。2012年度は神奈川県を中心に32校、約5,000名の生徒が受講しました。2007年の開始以来、同プログラムの受講者数は累計で約2万人に上ります（2013年3月末現在）。

フリート・フォーラムとのパートナーシップ（欧州）

NPOが活動に使用する車両の環境負荷軽減をサポートするため、日産はジュネーブに本部を置くNPOフリート・フォーラムとパートナーシップを組み、同組織を通じ国連機関を含む5団体に「日産リーフ」を一定期間、無償提供しています。2013年度も協力を継続していく予定です。

NGOの活動に「日産リーフ」が貢献
（写真提供／WFP：Rein Skullerud氏撮影）

「アース・アワー」への参加を呼びかけ（中国）

日産（中国）投資有限公司（NCIC）は、同社の全従業員に向けて、世界野生生物基金（WWF）が開始した「アース・アワー」に家族や友人を誘って参加するよう呼びかけました。この取り組みは、参加者がインターネット上で環境に対する自らのコミットメントを添えた写真を掲載し、その中から最も多くの支持を得た上位5人に賞が贈られるもので、環境への意識を高める活動として行われています。

▶▶ website

*「日産わくわくエコスクール」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

教育

日産は、将来世代を担う子供や若者を支援することは「未来への投資」であると考えます。より良い未来へと続く扉に誰もがアクセスできる社会を実現するために、事業で培った知識や技術を活用した教育プログラムの実施や、新興国における初等教育の機会提供といった活動に取り組んでいます。

「子供と本」を通じた取り組み（日本、ポルトガル、米国など）

日本では、創作童話と絵本のコンテスト「ニッサン童話と絵本のグランプリ」*を1984年から実施し、多くの作家や作品が誕生しています。また、出版した作品を全国の図書館や事業所近隣の幼稚園・保育園に届ける活動を継続し、これまでに寄贈された本は約19万3,000冊に上ります（2013年3月末現在）。2012年には、日産イベリア自動車会社がポルトガルで同様のコンテストを創設しました。行政の協力を得て、同国内の学校を通じて才能ある新進作家を発掘し、出版の機会を提供するプログラムです。また、米国では、北米日産会社が「ガバナーズ・ブックス・フロム・バース基金」に協力し、0～5歳の子供たちが本に親しむためのプログラムを支援しています。さらに、スマトラ大地震や東日本大震災などの自然災害の被災地においては、復興支援の一環としてNGOシャンティ国際ボランティア会が行う移動図書館プロジェクトを支援するなど、「子供と本」を通じた取り組みは日産の社会貢献活動の特色のひとつとなっています。

▶▶ website

*「ニッサン童話と絵本のグランプリ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

将来世代にモノづくりの魅力を伝える取り組み（英国、日本、南アフリカ、インドネシアなど）

日産は、モノづくりの楽しさや奥深さを将来世代に伝えたいと考え、さまざまな取り組みを行っています。欧州の研究開発拠点である英国の日産テクニカルセンター・ヨーロッパは、毎年英国内でエンジニアリングを専攻する大学生を招き、「アニュアル・エンジニアリング・サミット」を開催しています。2013年2月と3月に行われたイベントには26大学から約300名の学生が参加、施設見学のほか、日産の技術者との交流の場が設けられ、与えられたテーマに沿って学生たちと日産の技術者たちの間で真剣な議論が交わされました。

また、日本では日産従業員が小学校を訪れ、モノづくりの魅力を伝える出張授業「日産モノづくりキャラバン」や「日産デザインわくわくスタジオ」*を実施、年間約2万3,000名の子供たちに授業を届けています。

その他にも、南アフリカやインドネシアなど多数の国で、車両やエンジンを大学や専門学校に教材として寄贈し、学生の知識や技術向上に貢献しています。

日産のエンジニアと学生によるディスカッション

▶▶ website

*「日産モノづくりキャラバン」「日産デザインわくわくスタジオ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

社会的なサポートを必要とする子供たちへの教育支援（中国、南アフリカ）

めざましい経済発展を続ける中国では、仕事を求めて多数の人が地方から大都市に移住していますが、その多くは経済的に恵まれない家庭であり、子供たちへの社会的な支援が求められています。日産（中国）投資有限公司では、こうした社会的課題に対応するため、「ニッサン・ケアリング・フォー・マイグラント・チルドレン」と名づけたプログラムを2010年から実施しています。2012年度は東風日産乗用車公司（DFL-PV）と鄭州日産汽車有限公司（ZNA）も参加し、経済的に恵まれない子供たちが多く通う学校にコンピューターや楽器などを寄贈しました。セレモニーには日産従業員のほか、地元販売会社の代表や日産車オーナーも参加しました。

日産従業員が小学校を訪れセレモニーが行われました

また、南アフリカ日産会社（NSA）は、巡回車両による眼科検診「モバイル・アイクリニック」により、2012年度は1万1,482名の児童を対象に検診を実施し、597個の矯正用眼鏡を提供しました。さらに、高度な検査を必要とする650名の生徒には専門機関を紹介しました。NSAは過去3年間同プロジェクトを運営し、社会的支援を必要とする子供たちの学習環境を大きく改善することに貢献しています。

学術分野における取り組み

日産財団（日本）

地球規模での持続可能な社会の実現が求められる中、日産財団は、①物事の本質を捉え持続可能な発展をリードする人財の育成 ②根本的な解決手段を提案する研究に対する助成 を行っています。人財育成の一例として、子供たちの科学的思考能力の向上に貢献する優れた理科教育への助成を行っているほか、ルノー財団と連携したインターンシッププログラムを実施しています。また、研究助成では、低炭素化社会に向けたさまざまな基礎研究に対しての助成も行っています。その結果、2012年度は総計で34件、約4,000万円の助成を行いました。1974年の創設から2013年3月末までの助成金額は累計で約2,500件、69億2,000万円に上ります。

▸▸ website

日産財団の活動に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

オックスフォード日産日本問題研究所（英国）

1981年、日産の寄付により英国オックスフォード大学内に設立された同研究所は、ヨーロッパにおける現代日本研究の主要拠点のひとつとして広く知られ、日欧の相互理解の促進に寄与しています。

▸▸ website

オックスフォード日産日本問題研究所に関する詳細はウェブサイト（英語のみ）をご覧ください

人道支援

日産は、世界各地で発生した大規模自然災害で被災された方々への支援を行っています。グローバルに広がる事業所やグループ企業のネットワークを生かして的確にニーズを把握し、迅速で効果的な援助活動を展開しています。また、2012年度は、国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの協力関係を災害時以外にも拡大した、新たなグローバル・パートナーシップを発表するなど、人道支援での取り組みを拡大しています。

ハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップ

日産は、2005年に米国南部を襲ったハリケーン「カトリーナ」の被災者被災地支援をきっかけに、ハビタット・フォー・ヒューマニティとの協働を始めました。同NGOは、貧困や災害などにより安全で清潔な住環境を得られない人々のために、住居の建設と改修を通じた支援を世界各地で行っています。日産は、「人々の生活を豊かに」という自らのビジョンに通じる同NGOの理念に賛同し、パートナーシップを拡大することを決定。日本を含むアジア6ヵ国（タイ・インド・インドネシア・ベトナム・フィリピン）で、現地事業会社とその従業員もボランティアとして参加し、住居の建設などの活動を開始しました。

5人の従業員をハイチの復興支援に派遣（北米）

北米日産会社は、ハビタット・フォー・ヒューマニティと共同で、2010年に発生した地震で大きな被害を受けたハイチに従業員ボランティアを派遣するプロジェクトを実施することを決め、北米地域の従業員を対象に参加希望者を募りました。多数の応募者の中から小論文による選考で選ばれた5人の従業員が、2012年11月23日から12月1日の9日間にわたり、世界中のボランティアが集う大規模な建設プロジェクトに参加しました。

ハイチでの活動に参加した北米日産会社の従業員

東日本大震災の被災地でボランティア活動を実施（日本）

ハビタット・ジャパンとのパートナーシップのもと、岩手県大船渡市において従業員ボランティアによる復興支援活動を実施しました。計4回、約90名の従業員が現地を訪れ、仮設住宅で暮らす被災者の方々の生活を少しでも快適なものにするため、物置やひさし、縁台を設置するなどの作業を行いました。

自然災害への対応

中国雲南省で発生した地震の被災地を支援

2012年9月7日、中国雲南省でマグニチュード5.5の地震が発生し、多くの家屋が倒壊したほか、交通網が遮断され、がけ崩れも多発しました。冬の到来を目前に迅速な救援活動が必要とされる中、被害を知った日産（中国）投資有限公司と鄭州日産汽車有限公司は、直ちに支援を開始しました。両社の従業員から集めた冬用の衣類や文房具などを寄付するとともに、鄭州日産汽車有限公司が2台の車両を現地に派遣し、救援物資の運搬作業を支援しました。また、現場で支援活動にあたるボランティアの方々への資金援助も行いました。

イタリア北部地震の被災地における支援

2012年5月に2度の地震被害を受けたイタリア北部地域への支援として、日産は、イタリア赤十字社へ10万ユーロの寄付を行いました。また、エミリア・ロマーニャ州のリージョナル・プロテクション・エージェンシーへ4輪駆動のピックアップトラックである日産「ナバラ」を寄贈しました。地震による被害からの復旧活動に最適な車両である「ナバラ」は、政府機関やボランティア団体が行う救援活動などに幅広く貢献しました。

事業を営む地域への貢献

日産は、事業を行うどの地域においても、地域の方々に愛される「良き企業市民」でありたいと願っています。地域のイベントへの協力、清掃活動などの実施、施設開放など、さまざまな形で地域貢献活動を行っています。また、従業員もボランティアとして積極的にこうした活動に参加しています。

クルマづくりで培った『知』を社会貢献へ

神奈川県厚木市にある日産テクニカルセンター（NTC）と日産先進技術開発センター（NATC）では、清掃活動や地域のイベントへの協力など、さまざまな地域貢献を行う「NICE WAVE」活動を推進してきました。2011年度には、在籍人員のほぼ100%にあたる1万1,000人が活動に参加しました。2012年度はこれを発展させ、新たな地域貢献プログラム「Nissan Technical Center 地域ふれあい School」をスタートしました。この活動は「モノづくり拠点であるNTCとNATCの『知』を地域貢献につなげる」ことを目的とし、地域の学校や行政などの要望を受けて、商品企画やデザイン、環境技術など多岐にわたるテーマで出張授業や講演を行う取り組みです。

ステークホルダーからのメッセージ

ともに地域社会の再生を目指して

国際非営利法人ハビタット・フォー・ヒューマニティ・インターナショナル
CEO
ジョナサン・T・M・レックフォード氏

災害などで家を失った世界中の方々を助けるため、日産は2006年以来1,100万ドルに上る寄付を行ってきました。私たちハビタット・フォー・ヒューマニティとともに、住宅や地域社会の再建に協力し、人々に希望をもたらしてきた日産は、今では地域社会になくてはならない存在となっています。

2012年は日産から300万ドル近い寄付が寄せられ、ハビタットが米国およびアジアで実施している住宅建設、高効率エネルギー設備への更新、サステナビリティ関連の助成、衛生プロジェクトなどさまざまなプロジェクトに役立てられました。さらに日産から寄贈されたクルマが、現地のハビタットグループによる地域再生活動を支えています。

日産は世界各地の被災者に温かい支援を行ってきました。2005年にハリケーン・カトリーナなどで被災した米国南部に続き、東日本大震災に見舞われた日本、たび重なる台風や水害により被災したフィリピン、タイなど、さらにハリケーン・サンディに襲われた米国東海岸の人々にも支援の手が差し伸べられました。

日産のこうした献身的な協力に対し、ハビタットは心より感謝しています。今後もこのパートナーシップを継続し、誰もがきちんとした家に住める世界を、ともに目指していきたいと願っています。